

シャープ株式会社本社の思い出

シャープ本社ビルがよいよ取り壊されました。数々の新しい製品を世に送り出した中枢のビルです。盛者必衰の世とはいえあまりにも無念な結果です。ここに本社の在りし日の姿を掲載いたします。

これからのシャープの復活を願ってこの冊子を送ります。



何時までも忘れないでいたい記憶

93年間の第2の創業地に捧げた熱い情熱・シャープ魂と輝く誇りを！

もう二度と出会う事の無い 旧日本社の雄姿。皆さんの心に刻み付けて欲しい写真



シャープの全景写真 社友会の皆さんには、夫々旧日本社への深く強い思い出と
込み上げる惜別感はいり知れないでしょう。



解体が始まった旧日本社に別れを惜しむファンの方々



平成29年3月27日 解体が始まった日本社
心の中に93年の挑戦の記憶と輝かしい誇りを刻んでおこう



「創業は易く守成は難し」というが 猿猴捉月のたとえを顧みず、創業者の規模のみを追わずの思いを指導者が戒めておけばの思いと、不俱戴天の思いが交錯する方も多いでしょう。



桜の開花と共に日本社は解体されてゆく過去の輝かしい創業地の記憶を残そうとするファンが後を絶たない。



夜のとばりが降りた後も煌々と明りがとり活動していた。

早川徳次創業者をしのんで



創業者早川徳次会長ご逝去
(昭和55年6月24日)
社葬には本社ビルと田辺工場の
両側の道路はご会葬者で溢れた



本社ビルの表札「誠意と創意」
の文字が寂しい

りまして 我々の反省に
改め五つの蓄積の社是
を提唱いたします
一、信用の蓄積
二、資本の蓄積
三、奉仕の蓄積
四、人材の蓄積
五、取引先の蓄積
それでは本年もみんな暖か
手を握り合い 労をともに
楽しみを分かちて進んで
いきなす
健康にもくれぐれ留意願
います
昭和三十七年元旦
社長 早川徳次

早川徳次会長の自筆社是「五つの蓄積」

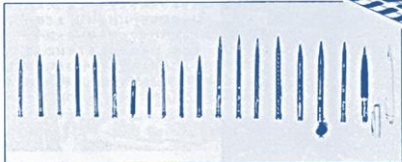
早川徳次創業者をしのんで窓特集号から抜粋

故早川徳次会長・語録でたどる軌跡

誠意と創意を貫かれた 86年の尊いご生涯

シャープペンシルを發明 一世を風靡する

芯の研究をはじめ、より以上の精巧な品物を、と工夫を重ねる。欧米市場で好評を得、やがて国内でも圧倒的な人気を博する。



早川式繰出鉛筆、シャープペンシルを發明（大正4年）。国内はもとより海外でも絶大な人気を博す。



「当時、繰出鉛筆というのはセルロイドで出来ている太い不細工なもので、芯を用いた一種の高級玩具に類したものでした。私は、何となく万年筆などの実用品にならないものかと考え始めたのです。」

それから繰出鉛筆の改良に熱中、明けても暮れても繰出鉛筆だった。夢の中にまで現れるときさえあった。

こうして、今日の完成されたシャープペンシルの前身である初期の繰出鉛筆は出来あがったのである。当初はまだシャープペンシルとは呼ばず、単に早川式繰出鉛筆と称した。

●早川徳次会長・全業工製作所は職人に事業を託す。後継者として、副社長田村氏の専断に反対し、創業の業をここで、副社長田村氏一掃を断る（大正8年）

大正元年9月15日 18歳で独立創業

「私の人生に最も大きな影響を与え、感謝しなければならぬ出会い。私の幼い時に近所に住んでいた井上という盲目の老婦人と、9歳の時から10年間公認した孫の主人田村さんの2人である。」

盲目の井上さんは、祖母にいじめられ、ひどい愛憎を抱えている私を、住込みのデパート事務につけてくれた。この時の井上さんに引かれた温かかった手のぬくもりを忘れたことがなかった。

私の生涯の門出は、盲目の井上さんによって開かれた。

以後約10年、住込みの年季奉公が続いた。きびしくつらかったが、この間に、親方の坂田さんから受けた教訓と温情も、この世の中の最大のものだった。

『新聞（朝日新聞）での小欄時代（13歳）』



逆境を乗り越え

早川の機械狂い といわれたが……

「部屋に奉公している頃から、これからは、いい機械を他人より先に使わないと成功しない」と思っていた。

そこで、独立して金がたまる機械を買入れた。その時買ったのが1馬力のモーター。場末のちっぽけな工場でモーターを持ったのは私のところ初めてで、だれもまだ機械に目を向けていなかった。ただ胸を躍らせた頃だった。

その頃の私を、早川の機械狂い、と職人仲間がカゲコをきいていたが、これらを気にしてはいたのではない。



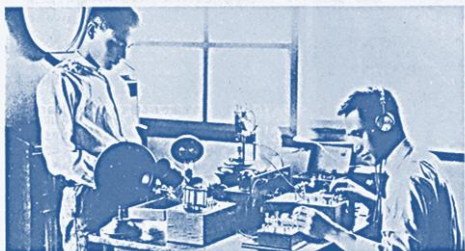
「ある日私は、電気屋で『いたづら小僧』という活動写真を観た。ところが、その中に登場する人物のバンドの先がペラペラと長く垂れているのが目に付いて仕方がなかった。あのバンドを工夫して、先を自由に結める方法はないものか、と思ったのが考案のきっかけであった。穴をあけないでバンドをしめることをあれこれ工夫した末に、バックルに細いコリコリを使って長短自在にするようにした新しいバンドを作った。」

小型鉱石ラジオセット 組立に成功

新事業の開拓を！

「再起以来、事業は順調に発展してはいるが、東京当時の雑誌には必ずしもなく、私はなるべく早く新事業の開拓をやりたいものと日夜心をくだしていたが、わが国でも、大正14年の3月に、いよいよラジオ放送局が開局されるといふ新聞発表があった。」

案に抱より一歩先に新境地を開拓は拓かばとつて事業の成功は望まれない。これは早川の私の私案である。そこで、私が異常なまでに新しいラジオ機械へ関心を持ったのも当然といわねばならぬ。」



●小型ラジオセット組立成功の瞬間（大正14年）

「運命は私に幸いした。心算機石原計士にアメリカからラジオ機械の第一便が着荷。そして、偶然そこへ行きあわせ私は、新着鉱石ラジオ1台を即座に購入したのだ。——早速音でこの機械の研究を始めた。」



「ラジオの原理はもちろん、電気の初歩だって皆目という私たちが、大正14年4月に、小型鉱石ラジオセットの組立に成功。これこそ、記念すべき商品としての国産ラジオ受信機第1号であった。」

同6月15日、J O B K が、大阪三越の放送所から最初の電波を流した。放送の波は私たちの作ったセットにも入ってきた。しかも、すばらしく明確に聴こえたのであった。

工場の方は全部集まってきた。そして小さなセットを繋い合うようにして初電波を聴いた。」

ラジオ受信機第1号（大正14年）

不屈の精神で 大阪で再起を期す

「自然の脅威の激しさと怖さ。私たちが折角意気込んでいた事業伸張のプランはもちろん、営々として仕上げてきた事業のすべてが、一瞬で壊滅されて、根こそぎやられてしまった。」



大正12年9月1日の関東大震災に遭遇。



「大震災で、事業はもちろん、心のよりどころである家も失ってしまいましたが、要を奪って間もない11月の中旬、まだ焼野原のような荒廃の東京の街を見て大阪へ——。そして、大震災からまる1年目の大正13年9月1日、現本社所在地、当時大阪府東成郡田村字田辺の新しい建物に、早川工業研究所の看板を掲げ、再起の第一歩を踏み出した。」

●大阪で再起の第一歩を踏み出した当時の田辺の地。



▲再起して2年、従業員はすでに30名に（大正14年）

本社の変革



第1創業地は関東大震災で被災
(大正12年9月1日)



創業地 現江東区新大橋3丁目17



(現長池町)大正14年創業開始 と創業者



昭和3年本社



昭和16年本社



昭和18年本社朝礼風景



昭和33年本社



平成26年本社



昭和37年ごろの本社空撮



広告塔が見える建物が、1954年築の初めてのコンクリートの田辺工場で、広告塔付近がテレビを生産始めた工場です。シャープ100周年の記事参照下さい。



田辺工場の写真

写真は当時の国鉄紀勢西線側から見た地下鉄御堂筋線西田辺駅方面の風景です。地下鉄の線路は、まだ青空が見えて、不思議な感覚でした。工場は左奥の3分の1が第一号テレビや押しボタン式テレビが生産されていました。



2011年の写真



阿倍野の名称は、古代にこの地を領有していた豪族阿倍氏の姓からとられたという説が有力。
西田辺は奈良時代の当地を田辺史(ふひと)の一族が管掌して、田辺郷と称されていたことにより
ります。



町名の長池は「長池」の池の名から名付けられたもので、現在池は南北の二つに分かれている。



昭和33年本社前 デジタルカラー処理しています



田辺ビルと地名の由来となった長池



昭和35年本社前初荷風景



同じく工場です。

昭和40年ころの本社
全景でしょうか。？

▲ 本社・田辺工場全景



当時の田辺工場の主力商品は白黒テレビ

よく知られていますがシャープ社名の由来はシャープペンシルです。当初早川式繰り出し鉛筆と売り出し、その後エバー・レディー・シャープペンシルとなり、これが定着し、社名の元となりました。

和文商標

シャープ・ダイ

昭和9年

ダインは電波に関する
技術用語



昭和30年

なんとなくナショナルの
マークに似ている

シャープ

昭和36年

シンプルになりました。

シャープ株式会社

昭和45年

社名が正式にシャープ
になった時。

シャープ株式会社

平成15年

からこのマーク。

今のカタログにはこれが記
載されている。

英文商標



大正10年

Tは早川徳次のTを表している

S H A R P

昭和30年

Sharp

昭和32年

S H A R P

昭和38年



昭和45年

SHARP

昭和53年

社章



昭和10年



昭和17年



昭和28年



昭和37年

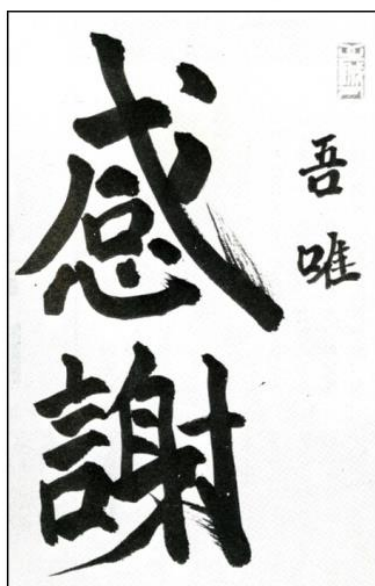


昭和45年

ひかりを超えて (SHARP コーポレートソング) / ハイ・ファイ・セット

時から時へ 旅する者よ
君は行く手に 明かりをさがす
ひとときの宿の向こうに
続く道は はるかに遠く
超えて ひかりを超えて
ひとつ先のひかりへ
超えて 想いも新た
ひとつ先の望みへ
はばたく者たちに 明日はSHARP

夢から夢へ 旅する者よ
君は目覚めて 力をつかむ
ひたすらに今を生きれば
今日の道は 扉を開く
超えて 時代を超えて
ひとつ先の時代へ
超えて 世界の友と
ひとつ先の宇宙へ
輝くこの星の 未来はSHARP



早川徳次創業者の精神的支柱でありますシャープの経営信条「二意専心 誠意と創意」、および「五つの蓄積」を基本に感謝の気持ちを持ち続ければコーポレートソングにあるように未来はシャープとなるのは間違いない。本社ビルはなくなっても、シャープは経営信条とともに未来に羽ばたいていくにちがいありません。

SHARP

経営信条

二意専心

誠意と創意

この二意に溢れる仕事こそ、人々に心からの満足と喜びをもたらす真に社会への貢献となる。

誠意は人の道なり、

すべての仕事にまごころを

和は力なり、

共に信じて結束を

礼儀は美なり、

互いに感謝と尊敬を

創意は進歩なり、

常に工夫と改善を

勇氣は生き甲斐の源なり、

進んで取り組み困難に

編集後記

この5月の総会をもって社友会九州支部の加藤支部長に代わり、上川副支部長が支部長として九州支部をけん引されていくことになります。

加藤支部長におかれましては2014年3月より、支部を引っ張ってこられました。この間シャープ株式会社としては存続の危ぶまれた時期になりました。社友会としても皆さんを元気づけられるように活動してまいりましたが、その先頭に立って活動されてこられたのが加藤支部長、上川副支部長でした。

また、加藤支部長は手術後の通院をしながらの重責を担ってこられ、ここに会員一同感謝申し上げる次第です。今後は上川副支部長が支部長となられ引き続き九州支部を盛り上げていただくことになりました。



2014年5月11日総会 別府ホテル白菊



2015年5月10日総会 柳川 かんぽの宿



2016年5月15日総会 八百治ホテル

3年間の支部総会での加藤支部長の総会における活動説明指針の写真です。この3年間九州支部としては歩こう会、つり同好会、カラオケ、パソコン、麻雀、山歩、ゴルフと多くの同好会活動を通じ、活発に交流を重ねてまいりました。

また納涼会や忘年会、特に昨年4月の熊本大地震におきましては九州支部から被災された会員の皆様に微力ながらも援助活動を行い、また他の支部からも少なからず援助を受け、それらをまとめていただいたのが加藤支部長でした。

この3年間の重責を全うされ、これからは健康回復を重点に頑張っていたいただければ願っております。お疲れ様でした。

おつかれ
さまでした!



創業地（現江東区新大橋3丁目17）付近の現在の写真。
この左手あたりになると聞いています。



シャープ社友会九州支部